

2023年10月 教会行事予定表			
曜	午 前	午 後	
1 日	ミサ 9:30 典礼 (太平洋) 10月運営委員会	47.107.94.386	
2 月			
3 火	OPC 10:00		
4 水	こっとな倶楽部 10:00		
5 木			
6 金		キリスト教講座①18:30	
7 土	掃除 (楽山) 10:00		
8 日	集会祭儀 9:30 典礼 (白鳥)	41.166.128.390	
9 月			
10 火	OPC 10:00		
11 水	こっとな倶楽部 10:00		
12 木			
13 金		キリスト教講座①18:30	
14 土	ミサ 10:00 キリスト教講座② 11:00 掃除 (楽山)		
15 日	集会祭儀 9:30 典礼 (楽山)	405.109.98.388	
16 月			
17 火	OPC 10:00		
18 水	こっとな倶楽部 10:00		
19 木			
20 金		キリスト教講座①18:30	
21 土			
22 日	集会祭儀 9:30 典礼 (蘭岳)	44.173.169.397	
23 月			
24 火	OPC 10:00		
25 水	こっとな倶楽部 10:00		
26 木			
27 金		キリスト教講座①18:30	
28 土	ミサ 10:00 キリスト教講座② 11:00 掃除 (蘭岳)		
29 日	合同ミサ 10:00 (登別教会)	163.184.151.401	
30 月			
31 火	OPC 10:00		

**教会は  
何ができるか**  
2023年度から教会のテーマ

カ  
になれたら いよいよ  
きょうかいの  
**バザー**  
バザーによります益金は全額、災害や社会的に  
弱い立場にある方々に届けられます。

**2023.9.24**  
**10:30~14:00**  
カトリック東室蘭教会

**バザー準備**  
9月23日(土)  
ミサ後から  
9月24日(日)  
関係者は  
8時から

**カリタスジャパン 現在 受付中の募金**

**海外援助 6230**

海外の人道支援、災害援助、開発プログラム実施のための活動に使われます。

○ トンガ支援 (6230にて受付中。2022年1月ー)

**国内援助 6220**

国内で人間の尊厳を大切にするために活動する草の根団体を支援します。カリタスジャパン教区担当者を通して受け付けられた援助申請を援助部会にて審議し、支援を行っています。

**四旬節献金 6210**

四旬節期間中の「愛の献金」です。広く国内外の自立支援やいのちを守る活動への支援に使われます。(四旬節キャンペーンのページへ)

**クリスマス募金 6240**

クリスマス時期に集められる募金は、世界の子どものためへの支援活動に使われます。

**カリタスジャパン事務局運営支援 6100**

事務局運営の資金として使用されます。緊急災害など、期間限定で呼びかけている募金

**トルコ南東部地震救援募金 6274**

トルコ南東部地震救援募金を受け付けています。(トルコ南東部地震 救援募金のページへ)

**ウクライナ危機人道支援 6273**

ウクライナ危機人道支援緊急募金を受け付けています。(ウクライナ危機 緊急募金のページへ)

**新型コロナウイルス感染症 6257**

新型コロナウイルス感染症緊急募金を受け付けています。(新型コロナウイルス緊急募金のページへ)

**スーダン支援 6261**

スーダン西部ダルフル地方で継続する紛争によって家を追われた国内避難民に対する人道支援活動のための募金を受け付けています。(スーダン支援のページへ)

**2023 9/10** **ひとつになるう**  
カトリック東室蘭教会広報誌 毎月第2日曜発行

**C+IC**  
カトリック東室蘭教会  
CATHOLIC HIGASHIMURORIAN CHURCH  
〒050-0073  
室蘭市宮の森町4-9-7  
☎0143-44-3851

**教会はイエス中心の集い。社会や教育現場の真ん中には？  
旧態依然の教育現場「させる体制」に疑問**

**日曜日の説教**  
み言葉は「救い」の見極め  
**2023年9月10日**  
A年  
年間第23主日  
マタイ18・15~20  
Fr. YASU

わたしは今、奉仕の場、「教育現場」におります。ここでは、さまざまな課題、新たな問題の発見があります。何についてかと言われると、もちろんのこと、「子どもたち自身」と、その「育ち」に関することです。

世の中は、今や人口減少に由来するいろいろな問題が関連して起こってきます。その中でも気になることがあります。それは長年、わたしの中では問題になっていたもので、学校教育の世界における「『させる』指導」です。

これだけ「子ども」についての研究が、医学的にも、いろいろな分野においても進んできて、新たな発見があるにも関わらず、それらは何ら「プラス」材料として取り入れられることなく、言葉、表現としては取り入れられても、旧態依然の「させる体制」が維持されてきたことです。わたしが体験してきた児童・生徒時代とあまり変わっていないのではないかとさえ思っていました。だからと言って、専門的に権威ある意見を述べることはわたしにはできませんが、素朴に感じる疑問を分かち合うことは出来ます。

**『させる』が不登校生徒増加の一因では？**

そこで申し上げますと、これまで「『させる』という旧体制」を維持することによって、不登校の生徒が増加してきたのではないかと感じているのです。端的に言えば、「学校に登校させる」ということではないでしょうか。それだと、ただ軌道修正をするだけの話で終わってしまいます。生徒はわがままで行かないのではないのです。その理由も納得できる要因、子どもたちの心的状況、精神環境が少しずつわかってきています。そして、大事なことは、大人が、教師が思っている以上に、子どもは成長しているということなんですよ。

**『させる』⇒『支える』転換に期待しつつも**

「変わる生徒指導」「『提要』12年ぶり改訂」「『させる』から『支える』へ」の見出しが気になります。(南日本新聞2023年9月4日朝刊) 教員用の手引書の文言が変わっても、大事なのは、それを運用する人です。確かに文言は変わったが、それだけでは何も変わりません。その中身を実現するのは人、教師だからです。

教員用の手引書「生徒指導提要」の改訂に伴い、国立教育政策研究所・高橋典久総括研究官の講演会が開催され、その要旨が紹介されています。

「従来の指導は『させる』指導になっていた。学校が荒れていた頃は、問題行動などで逸脱する子どもを修



議事録1. は、開催日時は表題のとおりです。議事録3. は出席者名で省略します。

## 3. 報告:

3.1, 9.10月の予定

9月 3日(日)年間第二十二主日	ミサ(蘭岳地区典礼当番)、敬老の祝福
9月10日(日)年間第二十三主日	信徒大会(苦小牧)
9月17日(日)年間第二十四主日	集会祭儀(白鳥地区典礼当番)
9月24日(日)年間第二十五主日	集会祭儀(楽山地区典礼当番) バザーの日
10月 1日(日)年間第二十六主日	ミサ(太平洋地区典礼当番)
10月 8日(日)年間第二十七主日	集会祭儀(白鳥地区典礼当番)
10月15日(日)年間第二十八主日	集会祭儀(楽山地区典礼当番)
10月22日(日)世界宣教の日	集会祭儀(蘭岳地区典礼当番)
10月29日(日)年間三十主日	合同ミサ(登別教会)

※毎週の行事(変更の場合あり)

- ・火曜日午前10時OPC(パソコン教室)
- ・水曜日午前10時～こっとな倶楽部
- ・金曜日午後6時30分キリスト教講座①

- ・土曜日第二、第四、午前10時ミサ、キリスト教講座② 11時

3.2 財務報告 現時点では問題ありません。

## 4. 議事:

4.1 教会のバザーについて

- ・9/24(日)10:30～14:00、関係者は8:00集合
- ・各新聞社には、案内のみ実施する。
- ・焼き鳥は、出来合いのものを買う。
- ・生ビールは、5リッター入り樽と缶入り生及びノンアルコール缶を用意
- ・当日海星学院高校に援助依頼する(昼食、他用意)
- ・バザーの役割分担表を、掲示する
- ・簡易テントは、6組あり。各コーナーで相談し決定
- ・登別教会へは、場所提供するが、テントは持参して頂く。

4.2 9月10月からのミサ、集会祭儀の典礼当番について(右の表に掲載)

4.3 苦小牧地区信徒大会と貸切バスの運行について

- ・9/10(日) 苦小牧地区信徒大会参加のため、悠々観光貸切バスを利用して  
東室蘭教会➡登別教会➡苦小牧市民会館➡登別教会➡  
東室蘭教会 (昼食は各自持参又は事前予約)

4.4 その他

- ・ 聖ベネディクト女子修道院様から、椅子15脚寄贈して頂きました。ありがとうございます。早速ホールでの会議・活動等で使用させて頂いております。
- ・コピー機 新替える。
- ・小教区再編計画の件(ブロック会議にて再検討)
- ・セシリアコーラス、練習再開(月一回)
- ・さくらカフェの再開時期検討
- ・9/30(土) 10:00 ミサ後 ② キリスト教講座

## 5. ミサ・集会祭儀の予定

9/3	ライヤ師	9/10	集会	9/17	集会	9/24	集会		
10/1	ライヤ師	10/8	集会	10/15	集会	10/22	集会	10/29	合同ミサ

正することが求められた。これからは、子どもたち自身のよりよくなるようとする力を『支える』指導でなければならない。

不登校は増え続けており、未然防止に力を入れないと厳しい。昔のような『学校に行くのが当たり前』という考えは薄まっている。子どもにとって魅力ある学校とは何か、問い直す姿勢が必要だ。いじめも、被害者を守るだけでは減らない。いじめをしないよう人権意識を高め、多様性を理解し、共生社会の一員となる市民性を育むことだ。」

## 問題への対処法に終始している感が拭えず

この要旨を見ても、何かいまいち、わたしの中では落ち着かないんですよ。やはり、「子ども」は対象になってはいるんですが、子ども自身を「どうにかしなくては」という視点に立っているように見え、子どもを外側から見ているような気がします。いわゆる子どもが「引き起こす」問題に対する「対処法」に終始してないでしょうか。さらには、高圧的な雰囲気感を禁じ得ないです。

「権威」の力は、自ずとじわじわと滲み出てくるものです。その上、「権威」は威張るためにあるのではなく、他者によりよく奉仕するためにあるものです。

## 日本の教会が存在感を現わすときと

### 言えば

ところで、日本の教会は、大きな社会の中でまさに一粒の砂のようにちいさな存在でしかありません。目立たなくて、存在そのものすら、在るのか無いかかわからないほどの存在です。それでも確かに存在しているのです。それを確認できる時というのは、「人間の救い」にかかわる事象が起こったときです。つまり、**罪を犯した人に対するかかわり方を伝える時です。**

今日の福音の始まりにある通りです。「兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで忠告しなさい。言うことを聞き入れたら、兄弟を得たことになる。聞き入れなければ、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。すべてのことが、二人または三人の証人の口によって確定されるようになるためである。それでも聞き入れなけれ

ば、教会に申し出なさい。教会の言うことも聞き入れられないなら、その人を異邦人か徴税人と同様に見なさい。はっきり言うておく。あなたがたが地上でつなぐことは、天上でもつなぐれ、あなたがたが地上で解くことは、天上でも解かれる。」と。

**罪を犯し、過ちを犯す人に対しては、できる限り努力しなさいということです。** どうしてかといえば、神は罪びとを放っておくことが、そのみ心ではないからです。イエスの心でもないのです。神は罪がどんなものなのかをよく知っておられるからです。その人をダメにするのです。神から遠ざけてしまい、その人の中から神の輝きを失くしてしまいます。実に、これらの小さい人が滅びるのは天の父のみ心ではないのです。

## 忠告の目的は兄弟を得るため。陥れではない

したがって、そうです。「忠告する」のはその人を陥れるためではなく、「兄弟を得る」ためなのです。そのために神は御独り子をこの世に遣わされたのです。そしてイエスは、罪ある世界を救うために十字架の道を歩まれました。「忠告する」ことは、まさしくその人を神の思いへと向けさせるためなのです。繰り返しますが、「忠告する」ことは、非難するためでもなく、吊るし上げるためでもありません。

そして教会が下す判断は天の父の判断を表します。地上にある教会であるわたしたちですが、天上の父とつながっているからです。つまり、すべてをつなぎ、また解くという教会の権威は、人間の力によるのではなく、教会の中心にいるイエスと天の父に由来します。そして教会は、「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」とあるように、イエスが中心にいる集いなのです。

今なお続いています。そのイエスは「インマヌエル(神は我々とともに)」（マタイ28章20節参照）として、いつもわたしたちの集いの真ん中にいらっしやり続けるからです。

「子ども真ん中教育」って何でしょうか、親身になって取り組みたいですね。



		9月	10月
1週	ミサ	蘭岳	太平洋
2週	集会	太平洋	白鳥
3週	集会	白鳥	楽山
4週	集会	楽山	蘭岳
5週			合同ミサ
	掃除	蘭岳	楽山